

令和5年度版  
(2023年度版)

# 事業概要



北部地域療育センター

よつば



# 社会福祉法人 よつ葉の会 基本理念

輝ける未来のために、一人ひとりの役割を果たそう。

## 目的

よつ葉の会は、地域貢献、社会貢献を目的として、事業を行う。

# 北部地域療育センターよつば 基本理念

すべての子どもたちが、人としての尊厳が守られ、豊かで生き生きとした人生を過ごすことができるよう支援することが、私たちの責務です。

私たちの規範を次のとおり定め、みなさんとともに歩いていくことを誓います。

## 1 生命の尊厳

一人一人の生命と人生をかけがえのないものとして大切にします。

## 2 個人の尊厳

一人の人としての個性、主体性、可能性を大切にします。

## 3 人権の擁護

いかなる差別、虐待、人権の侵害も許さず、人としての権利を擁護します。

## 4 社会への参加

すべての子どもたちが、社会の中で生き生きとした生活が送れるよう支援します。

はじめに

令和5年度（2023年度）名古屋市北部地域療育センターは「社会福祉法人よつ葉の会」に大切に民間移管され「北部地域療育センターよつば」として新しく歩み始めております。療育の継承に力点を置いて事業に取り組み、軌道に乗り始めた初年度でございました。これも、ご利用いただいている子どもたちとご家族をはじめ、日頃からお世話になっている皆様方のご理解とご支援の賜物と心より感謝いたしております。ここに、移管1年目の事業概要を年報としてまとめましたので、ご高覧いただければ幸いに存じます。

「よつ葉の会」は、児童から高齢者までのライフサイクルに応じた福祉事業を展開し、「輝ける未来のために、一人ひとりの役割を果たそう。」を法人理念に、地域共生社会を目指しております。「北部地域療育センターよつば」は、名古屋市北部療育センターと「よつ葉の会」とが、それぞれの歴史の中で築いてきた地域のサポートの輪を、重ね、広げ、深め、地域福祉の拠点として発展していけるよう力を尽くしていく所存でございます。

当センターは今年度、初診前サポート事業に取り組み始めております。そして来年度は地域支援・調整部門を設置し、地域に出向く療育支援を本格化させていく予定です。「よつ葉の会」の持ち味を活かし、療育を通して子どもたちと家族の笑顔を守り・広げ、皆さまと共に優しいインクルーシブな地域を目指していきます。

今後とも、なお一層のご支援、ご指導を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和6年8月

北部地域療育センターよつば 所長 今枝正行

# 目 次

令和5年度事業概要のあらまし	-----	1
<b>第1 施設の概要</b>		
1 施設の目的	-----	2
2 施設の構成	-----	2
3 設置年月日	-----	2
4 建物の概要	-----	2
5 事業の概要	-----	3
<b>第2 発達相談事業</b>		
1 相談	-----	6
2 心理検査及び心理面接	-----	10
3 療育グループ	-----	11
<b>第3 医療事業</b>		
1 診療	-----	14
2 理学療法	-----	19
3 作業療法	-----	20
4 言語聴覚療法	-----	21
<b>第4 通園事業</b>		
1 事業概要	-----	23
2 療育目標	-----	23
3 日課	-----	24
4 児童状況	-----	25
5 見守り一時支援	-----	26
6 行事	-----	27
7 アフターケアグループ	-----	27
<b>第5 地域ケア事業</b>		
1 関係機関との連絡調整	-----	28
2 巡回療育	-----	29
3 訪問療育	-----	30
4 地域啓発・地域交流	-----	32
5 通園部の卒・退園児のアフターケア	-----	34
6 北部地域療育センターよつばのホームページ	-----	34
7 北部地域療育センターよつばだよりの発行	-----	34
8 就学移行支援事業	-----	35
<b>第6 相談支援事業</b>	-----	36
北部地域療育センター利用者の10年間の推移（平成26年度～令和5年度）	-----	37

【注】 各表中の「%」欄の数値は、小数点以下第2位を四捨五入して表記している。  
このため、「%」欄の合計値が100.0とならない場合があるが、この事業概要では  
「%」の合計値は一律にすべて100.0と表記している。

# 令和5年度 事業概要のあらまし

## 1 発達相談事業

令和5年度の新規相談は、民間移管に伴う年度初めの準備期間があったため、前年比32件減の452件であった。これらの相談を主訴（保護者が訴える主な症状等）別にみると、「言語発達」が35.8%、「性格行動」が50.2%となっており、全体の86%を占めている。

センターへの紹介経路は、保健センターが全体の34.7%、保育所・幼稚園・認定こども園から合わせて30.1%、医療機関から11.5%であった。

区ごとの相談件数は、西区が189件（41.8%）、北区が178件（39.4%）、東区が81件（17.9%）であった。

年齢ごとの人数は、0～1歳が45名、2歳が112名、3歳が142名、4歳が63名、5歳が65名であり、2歳と3歳での相談が全体の56.2%を占めている。

心理検査の実施件数は、新規・継続合わせて781件（延件数）であり、検査数値が愛護手帳非該当相当（76以上）が403件（51.6%）、軽度相当（51～75）が244件（31.2%）であった。

療育グループの在籍児童数は、就園前グループが62名、並行グループが42名であり、就園前グループ在籍時の進路は、保育所・幼稚園等入園が21名、通園施設入園が16名、グループ継続が13名であった。

## 2 医療事業

小児科は新規受診が452件、再来受診が2,730件であった。再来受診に占める小学生以上の就学時の割合は43.3%（1,182件）となっている。

整形外科は新規受診が34件、再来受診が477件であった。

精神科は新規受診が2件、再来受診が91件、耳鼻咽喉科は新規受診が25件、再来受診が66件であった。

機能訓練の実施件数（延べ数）は、理学療法が1,436件、作業療法が1,397件、言語聴覚療法が498件であった。

## 3 通園事業

定員40人に対し、年度当初は43人が在籍、年度途中の入・退園があり、年度末には41人の在籍であった。知的障害と自閉症を合併する児童が25人、重症心身障害児7人、知的障害と肢体不自由を合併する児童が6人と配慮が必要な児童の割合が高い。

卒・退園後の進路は、特別支援学校への就学が4人、特別支援学級への就学が5人、保育所・幼稚園への就園等が9人、令和6年度も通園を継続する児童が26人であった。

## 4 地域ケア事業

卒・退園児のアフターケアを17施設に実施。巡回療育は47件、訪問療育は0件であった。

保健センターが実施する乳幼児発達相談やいこいの家への職員派遣や見学対応など積極的に行った。

センターの夏まつりは、令和元年度以来4年ぶりに開催し、児童や保護者との交流の機会とすることができた。

療育講演会は、「いま そして これから」～今後の地域療育センターの果たす役割～をテーマに、エリア内の保育所・幼稚園・認定こども園、小学校、児童発達支援事業所、行政の方々に参加いただき、開催した。

## 5 相談支援事業

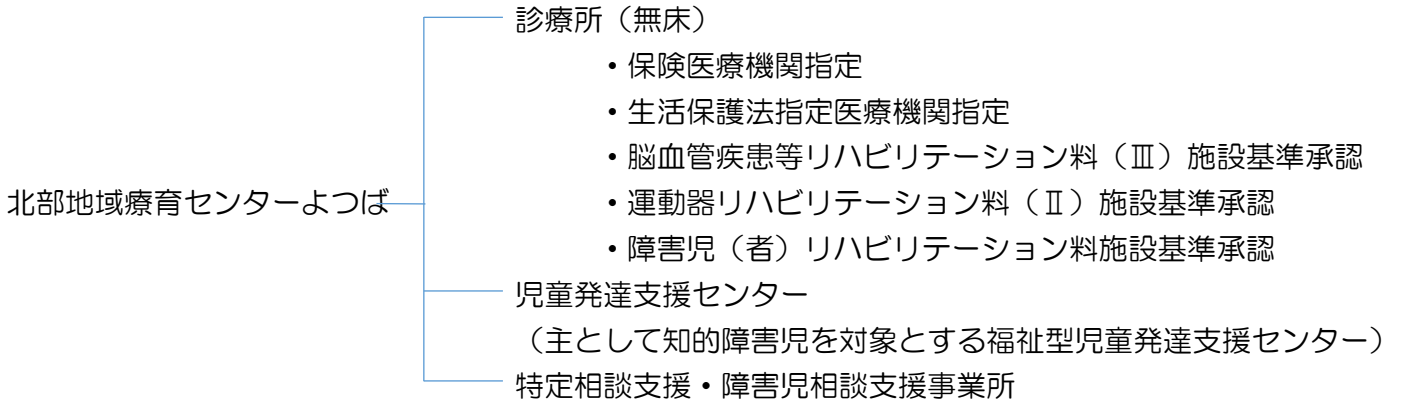
契約人数は257名、障害児相談支援利用計画案の作成件数は、本計画とモニタリングを合わせて326件であった。

# 第1 施設の概要

## 1 施設の目的

障害のある児童及びその疑いのある児童又はその保護者に対し、相談、検査、医療の提供及び療育訓練を行うことにより、障害の早期発見及びその軽減を図ることを目的とする。

## 2 施設の構成



## 3 設置年月日

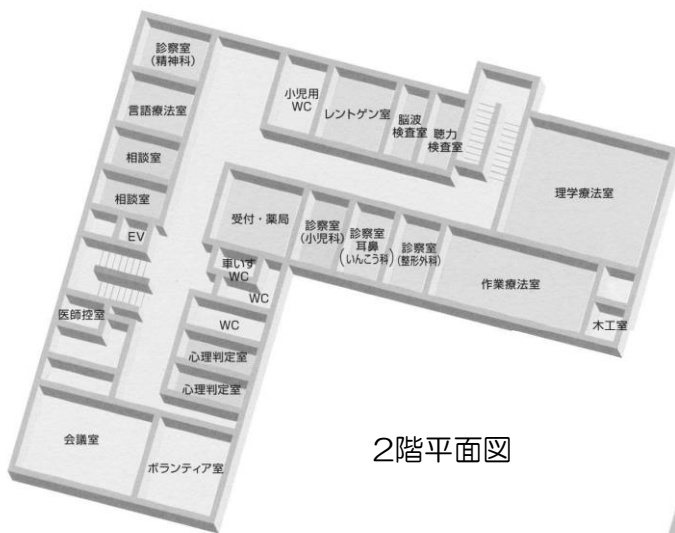
平成15年4月1日

※令和5年4月1日から名古屋市から運営移管

## 4 建物の概要

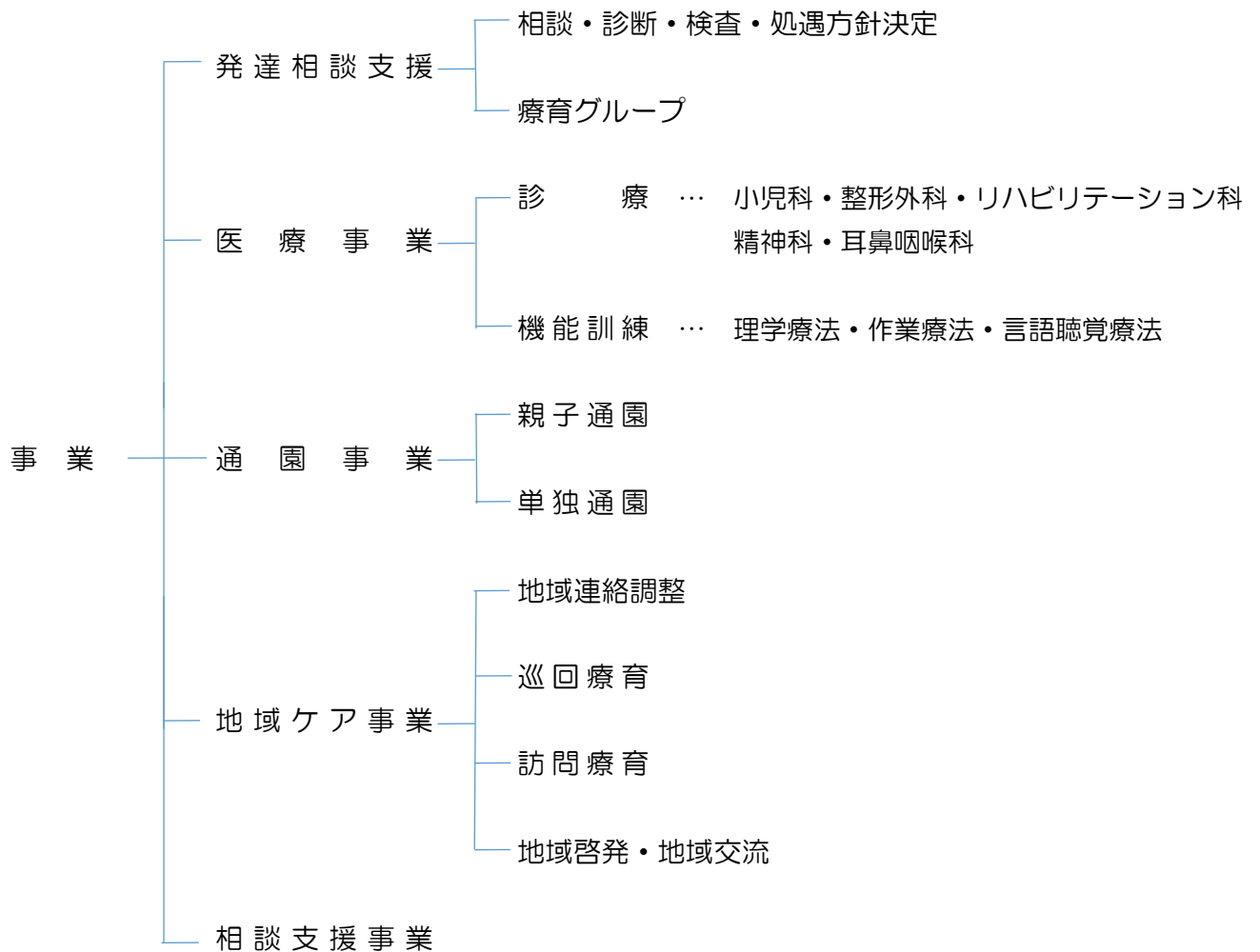
敷地面積  
構造  
規模

3,299㎡  
鉄筋コンクリート造り2階建て（エレベーター設置）  
建築面積 1,043.79㎡  
延床面積 1,749.91㎡



## 5 事業の概要

### (1) 事業の種類



### (2) 担当地域

東区、北区、西区

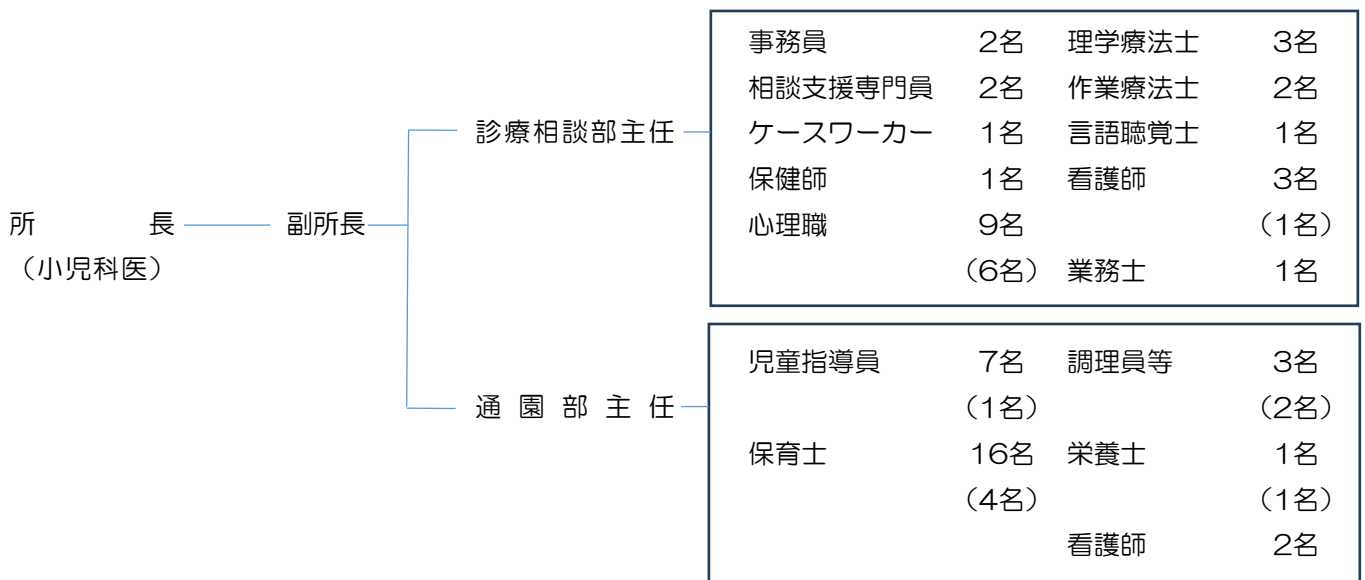
担当区域の人口・面積等（令和5年10月1日現在）

	東区	北区	西区	計
全人口（人）	86,711	161,250	151,108	399,069
就学前児童人口（人） （0～5歳児の人口）	4,073	6,396	6,344	16,813
就学前人口の割合	4.7%	4.0%	4.2%	4.2%
面積（k㎡）	7.71	17.53	17.93	43.17

※全人口・就学全児童人口・面積の各数値は「統計なごやweb版」より引用した。



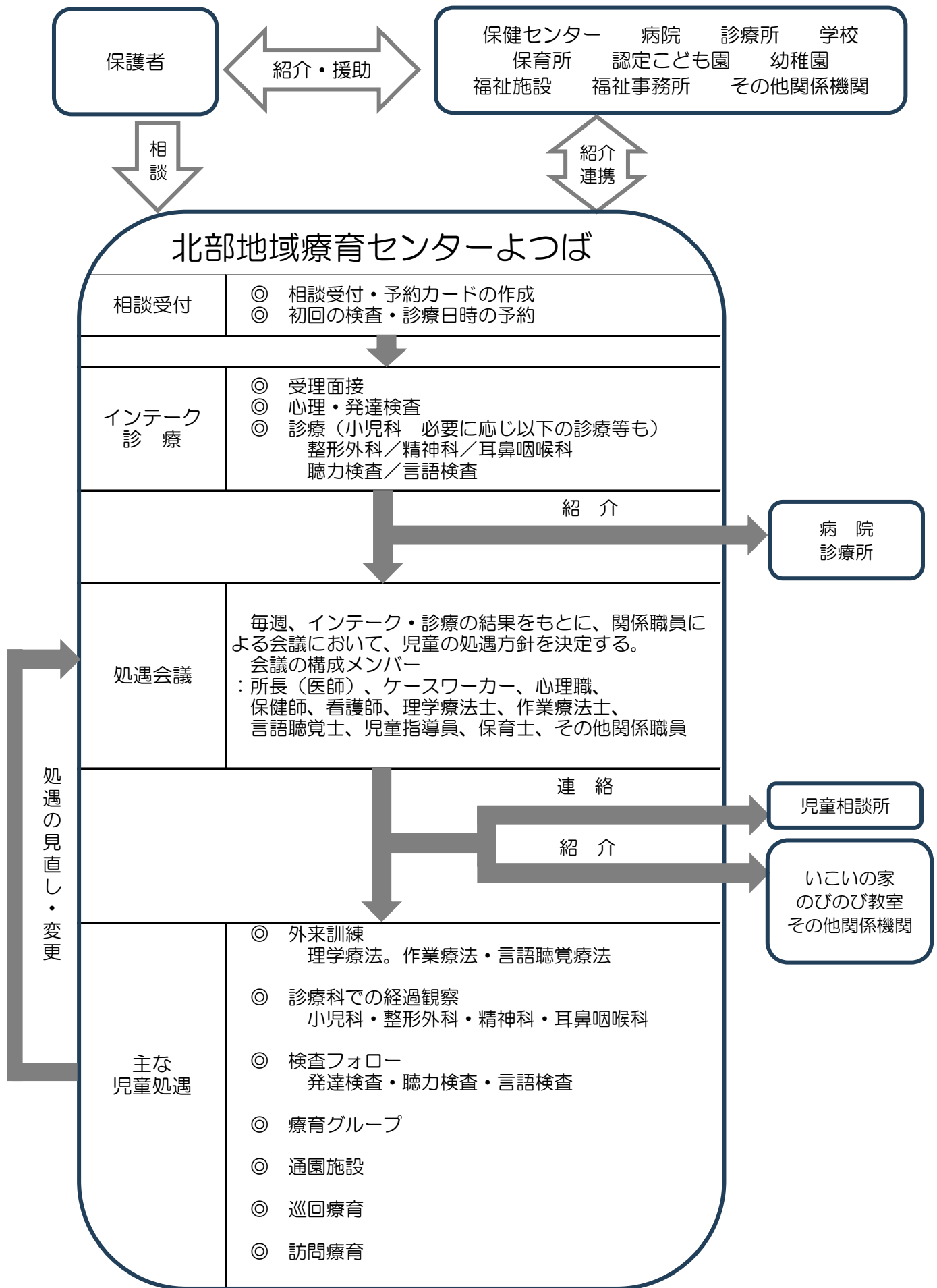
(3) 組織・職員体制 [ ( ) 内、非常勤職員再掲 ] (令和5年4月1日現在)





#### (4) 発達相談の流れ

以下は、保護者より相談を受けてからのおおまかな流れをチャート図に示したものである。



## 第2 発達相談事業

### 1 相談

#### (1) 新規相談

電話等で相談の予約を受け付け、あらかじめ来所日時を調整し、受理面接、心理面接、発達検査、知能検査、その他の心理検査ならびに診察を行い、後日、関係者による会議を開催して処遇方針を決定している。

表2-1 区別の新規相談受付状況 (単位：人)

区	就 学 前 児 童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
東 区	1	8	20	27	8	11	6	0	0	0	0	81	17.9
北 区	5	9	46	54	24	29	10	1	0	0	0	178	39.4
西 区	4	18	46	58	30	25	8	0	0	0	0	189	41.8
その他の区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
市 外	0	0	0	3	1	0	0	0	0	0	0	4	0.9
計	10	35	112	142	63	65	24	1	0	0	0	452	100.0

(注) 就学前児童の年齢は、相談時点の満年齢による。(以下、表2-8まで同じ。)

表2-2 他の療育センターでの相談歴の有無 (単位：人)

療育センター別	就 学 前 児 童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
中央療育センター	0	0	0	1	1	2	1	0	0	0	0	5	1.1
西部地域療育センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
南部地域療育センター	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0.2
東部地域療育センター	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	3	0.7
相談歴なし	10	35	111	140	61	62	23	1	0	0	0	443	98.0
計	10	35	112	142	63	65	24	1	0	0	0	452	100.0

表2-3 主訴（症状）別状況

（単位：人）

主 訴	就 学 前 児 童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
言 語 発 達	0	8	69	58	8	16	3	0	0	0	0	162	35.8
精 神 発 達	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	3	0.7
運 動 発 達	9	15	1	2	0	2	0	0	0	0	0	29	6.4
全 体 発 達	1	6	9	6	1	4	3	0	0	0	0	30	6.6
聴 覚	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
性 格 行 動	0	6	33	75	53	42	17	1	0	0	0	227	50.2
そ の 他	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0.2
計	10	35	112	142	63	65	24	1	0	0	0	452	100.0

（注） 主たる主訴で分類した。

表2-4 紹介機関（経路）別状況

（単位：人）

紹 介 機 関	就 学 前 児 童							小学生		中学生	その他	計	%	
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年					
保健センター	1	16	54	68	6	8	4	0	0	0	0	157	34.7	
医 療 機 関	8	14	16	5	4	2	3	0	0	0	0	52	11.5	
療 育 セ ン タ ー	中 央	0	0	0	1	1	2	1	0	0	0	0	5	1.1
	西 部	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
	南 部	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0.2
	東 部	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	3	0.7
児 童 相 談 所	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0.4	
社 会 福 祉 事 務 所	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0.4	
児 童 福 祉 施 設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
いこいの家	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0.4	
保 育 所	1	0	18	20	20	21	5	0	0	0	0	85	18.8	
幼 稚 園	0	0	0	6	5	11	3	1	0	0	0	26	5.8	
認 定 こ ど も 園	0	0	2	10	8	4	1	0	0	0	0	25	5.5	
学 校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0	
近 隣 ・ 知 人	0	0	2	2	1	1	0	0	0	0	0	6	1.3	
そ の 他	0	3	9	18	14	9	6	0	0	0	0	59	13.1	
な し (家 族 ・ 親 戚)	0	2	9	9	2	4	1	0	0	0	0	27	6.0	
計	10	35	112	142	63	65	24	1	0	0	0	452	100.0	

（注） 当センターへの来所にあたり、紹介を受けた機関等の状況である。

表2-5 障害種別状況

(単位：人)

障害種別	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
知的障害	1	5	3	3	2	5	1	0	0	0	0	20	4.4
自閉症+知的障害	0	1	11	6	3	5	2	0	0	0	0	28	6.2
自閉症	0	7	54	88	42	31	9	1	0	0	0	232	51.3
肢体不自由	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.2
肢体不自由+知的障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
言語発達障害等	1	6	38	35	11	18	9	0	0	0	0	118	26.1
聴覚障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
適性	0	1	3	8	5	4	3	0	0	0	0	24	5.3
保健	8	14	2	1	0	1	0	0	0	0	0	26	5.8
自閉症+聴覚障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
重症心身障害	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0.7
性格行動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
計	10	35	112	142	63	65	24	1	0	0	0	452	100.0

表2-6 処遇方針決定状況

(単位：件)

処遇方針	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
経過フォロー	10	30	103	125	60	51	21	0	0	0	0	400	67.1
理学療法	10	15	1	1	0	0	0	0	0	0	0	27	4.5
作業療法	0	0	0	1	3	15	6	0	0	0	0	25	4.2
言語聴覚療法	0	1	1	2	6	14	3	0	0	0	0	27	4.5
おひさま教室	2	7	13	2	0	0	0	0	0	0	0	24	4.0
あおぞら教室	0	0	0	5	6	1	0	0	0	0	0	12	2.0
通園施設	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.3
いこいの家紹介	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	0	4	0.7
巡回療育指導	1	0	3	5	4	2	0	0	0	0	0	15	2.5
訪問療育指導	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
他機関紹介	0	1	6	2	1	1		0	0	0	0	11	1.9
特にフォローなし	0	3	10	15	4	12	4	1	0	0	0	49	8.2
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
計	23	58	141	159	84	96	34	1	0	0	0	596	100.0

(注) 1. 1人の児童につき、複数の処遇方針が決定した場合は重複して計上しており、表2-1から表2-5までの合計とは一致しない。

2. 「経過フォロー」は、継続して検査・診察・支援等を行うものである。

## (2) 初診前相談

令和3年9月より、希望者に対して初診前相談を実施している。

表2-7 区別の初診前相談実施状況

(単位：人)

区	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
東区	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	14.3
北区	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	14.3
西区	1	0	6	2	0	0	1	0	0	0	0	10	71.4
計	1	0	8	2	1	1	1	0	0	0	0	14	100.0

## (3) 継続相談

令和4年度以前から継続して相談のある児童について、処遇方針の追加や変更を行った件数は以下のとおりである。

表2-8 処遇方針の追加・変更状況

(単位：件)

処遇方針	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
経過フォロー	0	0	2	3	3	1	2	0	0	0	0	11	4.8
理学療法	0	0	1	3	1	0	0	2	2	0	0	9	3.9
作業療法	0	0	0	3	9	50	10	2	1	0	0	75	32.6
言語聴覚療法	0	1	1	7	11	26	8	1	0	0	0	55	23.9
おひさま教室	1	2	7	5	0	1	0	0	0	0	0	16	7.0
あおぞら教室	0	0	0	2	12	4	0	0	0	0	0	18	7.8
通園施設	0	0	6	8	1	0	0	0	0	0	0	15	6.5
巡回療育指導	0	1	1	6	11	6	1	4	0	1	0	31	13.5
訪問療育指導	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
他機関紹介	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
特にフォローなし	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
計	1	4	18	37	48	88	21	9	3	1	0	230	100.0

(注) 1人の児童につき複数の処遇方針を決定した場合は重複して計上している。

## 2 心理検査及び心理面接

初診及びそのフォローとして、心理面接、発達検査、知能検査、その他の心理検査を行っている。

### (1) 新規相談児童の心理検査及び心理面接

表2-9 新規相談児童の心理検査・心理面接実施状況

(単位：件)

区	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
東区	0	5	21	26	9	11	6	0	0	0	0	78	18.4
北区	0	9	45	54	24	25	10	1	0	0	0	168	39.7
西区	0	17	46	55	28	22	7	0	0	0	0	175	41.4
その他の区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
市外	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0.5
計	0	31	112	137	61	58	23	1	0	0	0	423	100.0

(注) 就学前児童の年齢は、相談時点の満年齢による。

### (2) 継続相談児童の心理検査及び心理面接

表2-10 継続相談児童の心理検査・心理面接実施状況

(単位：件)

区	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
東区	0	0	2	8	14	31	10	0	0	0	0	65	18.2
北区	0	0	7	16	39	55	18	1	0	0	0	136	38.0
西区	0	4	13	26	31	63	18	0	0	0	0	155	43.3
その他の区	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	0.6
市外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
計	0	4	22	50	84	151	46	1	0	0	0	358	100.0

(注) 1. 就学前児童の年齢は、検査等を行った時点の満年齢による。

2. 令和4年度に初診を受けた児童に対する再検査は含まない。

### (3) 検査結果（新規相談児童及び継続相談児童）

表2-11 新規及び継続相談児童の年齢別検査結果

(単位：件)

区分		就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
愛護手帳	検査数値	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
1度	20以下	0	1	2	1	3	3	5	0	0	0	0	15	1.9
2度	21~35	0	3	1	2	5	7	1	1	0	0	0	20	2.6
3度	36~50	0	3	16	23	25	25	7	0	0	0	0	99	12.7
4度	51~75	0	12	63	62	38	57	12	0	0	0	0	244	31.2
非該当	76以上	0	16	52	100	73	117	44	1	0	0	0	403	51.6
計		0	35	134	188	144	209	69	2	0	0	0	781	100.0

(注) 検査数値は、発達検査、知能検査、その他心理検査の発達指数、知能指数等である。

### 3 療育グループ

障害や発達の遅れがある、又はその疑いがある児童を対象に実施している。療育グループには、通園施設や保育所又は幼稚園等へ通っていない児童を対象とした就園前グループ（おひさま教室）と、保育所又は幼稚園等へ通っている児童を対象にした並行グループ（あおぞら教室）の2種類がある。

#### (1) 就園前グループ（おひさま教室）

表2-11 就園前グループの実施状況

グループ名	開催日	対象児童	担当職員
きいろ	毎週月曜日	1歳児中心で言葉遅れのある児童	保育士3人・児童指導員・心理職
もも	隔週火曜日	0歳児中心	保育士2人・看護師・理学療法士・言語聴覚士
あお	毎週火曜日	未歩行で運動発達がゆっくりな児童	保育士2人・心理職2名・作業療法士・看護師
にじ	開催なし	2歳児中心で言葉遅れのある児童	—
しろ	毎週水曜日	2歳児中心で言葉遅れのある児童	保育士3人・心理職2人
みどり	毎週木曜日	2歳児中心で言葉遅れのある児童	保育士3人・心理職2人
あか	毎週金曜日	発達全体の変化がゆっくりな児童	保育士3人・心理職1名・保健師・理学療法士
ほし	開催なし	2歳児中心で言葉遅れのある児童	—

表2-12 就園前グループ別の児童数

(単位：人)

グループ名	0歳児 令和4年4月 1日以降に出生	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	%
きいろ	0	0	10	0	0	0	0	10	16.1
もも	0	4	4	0	0	0	0	8	12.9
あお	0	1	4	3	0	0	0	8	12.9
にじ	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
しろ	0	0	0	21	0	0	0	21	33.9
みどり	0	0	0	10	0	0	0	10	16.1
あか	0	0	0	4	0	0	1	5	8.1
計	0	5	18	38	0	0	1	62	100.0

(注) 1. 0歳児については、令和4年4月1日以降に生まれた児童とそれ以前に生まれた学齢0歳児とを分け、それ以外の年齢は学齢で区分してある。(以下、表2-13、表2-14について同じ。)

2. 年度の途中で転居や辞退によりグループを終了した児童を含む。

表2-13 就園前グループの区別児童数

(単位：人)

区	0歳児 令和4年4月 1日以降に出生	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	%
東区	0	3	10	18	0	0	1	32	51.6
北区	0	2	4	13	0	0	0	19	30.7
西区	0	0	4	7	0	0	0	11	17.7
その他の区	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
計	0	5	18	38	0	0	1	62	100.0

表2-14 就園前グループ児童の障害種別状況

(単位：人)

障害種別	0歳児	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計	%
	令和3年 4月1日以降 に出生								
知的障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
知的障害+肢体不自由	0	0	1	0	0	0	0	1	1.6
知的障害+聴覚障害	0	3	5	5	0	0	0	13	21.0
自閉症	0	0	6	12	0	0	0	18	29.0
自閉症+知的障害	0	0	0	14	0	0	0	14	22.6
肢体不自由	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
肢体不自由+知的障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
重症心身障害	0	1	1	6	0	0	1	9	14.5
言語発達障害等	0	0	3	1	0	0	0	4	6.5
保健	0	1	2	0	0	0	0	3	4.8
計	0	5	18	38	0	0	1	62	100.0

表2-15 就園前グループの月別児童数(累計)

(単位：人)

月 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
児童数	24	38	44	43	44	46	44	49	51	52	52	48	535
開始	24	12	7	2	1	2	5	5	3	1	0	0	62
終了	0	0	3	1	0	6	0	1	0	0	0	39	50

表2-16 就園前グループ児童の終了状況(進路)

(単位：人)

保育所・幼稚園 認定こども園 入園	通園施設入園	その他(転居等)	グループ継続	計
21	16	12	13	62

## (2) 並行グループ(あおぞら教室)

表2-17 並行グループの実施状況

グループ名	開催日	対象児童	担当職員
オレンジ	毎週月曜日	3歳児	保育士3人・心理職2人
グリーン	第2・4火曜日	4歳児	保育士3人・心理職・言語聴覚士
ピンク	毎週木曜日	5歳児	保育士3人・心理職2人

(注) ピンクグループは後期から隔週で実施。

表2-18 並行グループ別の児童数

(単位：人)

グループ名	3歳児	4歳児	5歳児	計	%
オレンジ	20	0	0	20	47.6
グリーン	0	10	0	10	23.8
ブルー	0	0	12	12	28.6
計	20	10	12	42	100.0

(注) 年齢は、学齢区分による。(以下、表2-19・表2-20とも同じ。)



表2-19 並行グループの区別児童数 (単位：人)

区	3歳児	4歳児	5歳児	計	%
東 区	4	1	3	8	19.1
北 区	3	4	3	10	23.8
西 区	13	5	6	24	57.1
その他の区	0	0	0	0	0.0
計	20	10	12	42	100.0

表2-20 並行グループ児童の障害種別状況 (単位：人)

障害種別	3歳児	4歳児	5歳児	計	%
知的障害	0	0	0	0	0.0
自閉症＋知的障害	9	5	2	16	38.1
自閉症	11	5	10	26	61.9
言語発達障害	0	0	0	0	0.0
保健	0	0	0	0	0.0
計	20	10	12	42	100.0

表2-21 並行グループの月別児童数(累計) (単位：人)

区分	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	児童数		13	13	28	33	33	35	38	38	37	36	35	0
開始		15	1	16	4	1	3	2	0	0	0	0	0	42
終了		0	1	1	1	0	1	0	0	2	0	1	34	41

表2-22 並行グループ児童の終了状況(進路) (単位：人)

就学	経過良好	通園施設入園	その他(転居等)	計
9	29	0	4	42

### (3) アフターケアグループの実施状況

療育グループを終了し、保育所・認定こども園・幼稚園等に入所(園)した児童の保護者を対象として、グループを作って、保育所や幼稚園等、又は家庭での生活についてや就学に向けての悩み、不安及び疑問などの対して、保育士、ケースワーカーが助言・援助を行っている。

10月からは保護者を主体とした自主グループに移行し、職員は側面から支援を行なっている。

表2-23 アフターケアグループの実施状況

グループ名	開催状況	参加者数	担当職員
しろ・きいろ	月1回(金曜日) 10:00~11:30	14	保育士・ケースワーカー
オレンジ	月1回(金曜日) 10:00~11:30	6	保育士・ケースワーカー
グリーン	2か月に1回(火曜日) 10:00~11:30	1	保育士・ケースワーカー

### 第3 医療事業

#### 1 診療

小児科（常勤1名、非常勤1名/月2回）、整形外科・リハビリテーション科（非常勤5名/月4回1名、月2回3名、月1回1名）、精神科（非常勤1名/月3回）及び耳鼻いんこう科（非常勤1名/月2回）による診察を行っている。

表3-1 新規相談児童の小児科診断区分別状況

（単位：人）

診断区分	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
ダウン症候群	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0.7
その他症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
てんかん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
知的障害	1	5	3	3	2	5	1	0	0	0	0	20	4.4
自閉症及び自閉症周辺	0	8	67	94	45	37	12	1	0	0	0	264	58.4
多動症候群	0	1	6	6	4	7	2	0	0	0	0	26	5.8
言語発達遅滞	0	6	32	23	4	0	2	0	0	0	0	67	14.8
構音障害	0	0	0	4	1	7	1	0	0	0	0	13	2.9
吃音	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	3	0.7
難聴	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
脳性麻痺	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.2
運動発達遅滞	5	12	0	1	0	1	0	0	0	0	0	19	4.2
筋ジストロフィー	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.2
急性脳症後遺症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
脳炎後遺症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
整形外科疾患	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.2
境界域	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	4	0.9
正常域	0	1	3	9	5	4	2	0	0	0	0	24	5.3
その他	0	1	1	0	2	1	1	0	0	0	0	6	1.3
計	10	35	112	142	63	65	24	1	0	0	0	452	100.0

- （注） 1. 就学前児童の年齢は、受診した時の満年齢による。  
 2. 初めて小児科を受診した実人員数による。  
 3. 診断が複数の区分に該当する場合は、主となる診断によって集計している。

発達障害の診断は、その時々での判断ではなく発達経過を重視し診断する。確定診断が難しいケースは、状態像である言語発達遅滞あるいは運動発達遅滞として暫定的に区分している。

自閉症スペクトラムに、知的障害あるいはADHD等の他の発達障害が併存するケースについては「自閉症及び自閉症周辺」に区分している。

表3-2 再来児童の小児科診断区分別状況

(単位：件)

診断区分	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
ダウン症候群	0	2	6	4	9	3	3	7	1	0	3	38	1.4
その他症候群	0	0	5	4	4	6	4	0	1	0	0	24	0.9
てんかん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
知的障害	0	9	14	10	11	30	17	42	21	10	15	179	6.6
自閉症及び自閉症周辺	0	3	65	192	262	376	189	349	162	114	84	1,796	65.8
多動症候群	0	1	1	26	20	33	22	88	80	44	11	326	11.9
言語発達遅滞	0	0	17	41	39	17	19	33	24	9	2	201	7.4
構音障害	0	0	0	1	3	7	1	3	0	0	0	15	0.6
吃音	0	0	0	0	0	0	3	5	1	2	0	11	0.4
難聴	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0.1
脳性麻痺	0	0	2	3	2	3	0	1	0	0	0	11	0.4
運動発達遅滞	0	8	4	2	0	1	1	0	0	0	0	16	0.6
その他神経疾患	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	0.1
筋ジストロフィー	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	0	3	0.1
水頭症	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.0
整形外科疾患	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.0
急性脳症後遺症	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	0.1
脳炎後遺症	0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	4	0.2
境界域	0	0	0	0	0	4	3	13	12	4	0	36	1.3
正常域	0	0	0	0	2	2	3	6	28	0	0	41	1.5
その他	0	0	0	0	1	10	2	7	0	0	0	20	0.7
計	0	24	116	289	356	495	268	554	330	183	115	2,730	100.0

- (注) 1. 就学前児童の年齢は、受診した時の満年齢による。  
2. 初診を除き、小児科を受診した者の延べ人数による。  
3. 診断が複数の区分に該当する場合は、主となる診断によって集計している。

表3-3 整形外科・リハビリテーション科の診断区分別状況（新規）

（単位：人）

診断区分	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
疾病に伴う運動発達障害	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	8.8
運動発達遅滞	6	14	2	1	0	0	0	0	0	0	0	23	67.7
ダウン症候群	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2.9
脳性麻痺	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2.9
骨・関節疾患	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	5.9
中枢性協調運動障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
その他	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	4	11.8
計	10	16	2	4	0	0	0	1	0	1	0	34	100.0

- （注） 1. 就学前児童の年齢は、受診した時の満年齢による。  
 2. 初めて整形外科・リハビリテーション科を受診した実人員数による。  
 3. 診断が複数の区分に該当する場合は、主となる診断によって集計している。

表3-4 整形外科・リハビリテーション科の診断区分別状況（再来）

（単位：件）

診断区分	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
脳性麻痺	1	0	0	0	3	3	0	0	0	14	0	21	4.4
疾病による運動障害	1	6	3	20	5	2	4	27	12	0	5	85	17.8
運動発達遅滞	7	48	47	34	13	6	7	13	1	5	0	181	38.0
ダウン症候群	2	12	19	12	8	0	4	14	0	0	0	71	14.9
疾病に伴う運動発達遅滞	0	3	12	10	9	7	3	6	2	4	1	57	12.0
後天性要因による運動障害	0	0	1	3	14	13	4	6	0	0	0	41	8.6
骨・関節疾患	1	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	4	0.8
その他	0	2	0	4	2	4	0	2	0	3	0	17	3.6
計	12	72	82	85	54	35	22	68	15	26	6	477	100.0

- （注） 1. 就学前児童の年齢は、受診した時の満年齢による。  
 2. 診断が複数の区分に該当する場合は、主となる診断によって集計している。

表3-5 精神科の診断区分別状況（新規）

（単位：人）

診断区分	就 学 前 児 童							小 学 生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
自 閉 症	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	100.0
不 安 障 害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
神 経 症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
適 応 障 害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
う つ 病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
抑うつ状態	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
計	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	100.0

- （注） 1. 就学前児童の年齢は、受診した時の満年齢による。  
 2. 初めて精神科を受診した実人員数による。  
 3. 診断が複数の区分に該当する場合は、主となる診断によって集計している。

表3-6 精神科の診断区分別状況（再来）

（単位：件）

診断区分	就 学 前 児 童							小 学 生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
自 閉 症	0	0	0	0	11	2	0	22	32	12	12	91	100.0
不 安 障 害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
神 経 症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
適 応 障 害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
う つ 病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
抑うつ状態	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
そ の 他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
計	0	0	0	0	11	2	0	22	32	12	12	91	100.0

- （注） 1. 就学前児童の年齢区分は、受診した時の満年齢による。  
 2. 診断が複数の区分に該当する場合は、主となる診断によって集計している。

表3-7 耳鼻いんこう科の診断区分別状況（新規）

（単位：人）

診断区分	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
難聴（疑いを含む）	0	0	1	3	4	6	4	0	0	0	0	18	72.0
滲出性中耳炎	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	4.0
耳垢栓塞	0	0	1	1	2	0	0	0	0	0	1	5	20.0
鼻疾患	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4.0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
計	0	0	3	5	6	6	4	0	0	0	1	25	100.0

- （注） 1. 就学前児童の年齢は受診時の満年齢による。  
 2. 初めて耳鼻いんこう科を受診した実人員数による。  
 3. 診断が複数の区分に該当する場合には、主たる診断で集計している。

表3-8 耳鼻いんこう科の診断区分別状況（再来）

（単位：件）

診断区分	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
難聴（疑いを含む）	0	0	1	1	0	7	2	8	1	0	0	20	30.3
滲出性中耳炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1.5
耳垢栓塞	0	0	0	0	3	2	0	23	0	5	9	42	63.6
鼻疾患	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1.5
その他	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	3.0
計	0	0	1	1	3	10	2	33	1	5	10	66	100.0

- （注） 診断が複数の区分に該当する場合は、主となる診断によって集計している。

表3-9 診断書等の発行状況

（単位：件）

診断書などの種別	診療科			
	小児科	整形外科	計	%
特別児童扶養手当診断書	75	1	76	11.6
障害児福祉手当診断書	0	4	4	0.6
身体障害者手帳診断書	0	12	12	1.8
補装具交付(修理)意見書・証明書 基準外補装具交付意見書	0	61	61	9.3
障害証明書	1	0	1	0.2
その他の診断書・証明書	493	9	502	76.5
計	569	87	656	100.0

- （注）「その他の診断書・証明書」の内容は、保育所への入所に係る診断書、私立幼稚園特別支援教育費補助金事業に係る診断書、児童発達支援利用手続きに係る診断書、手当の現況届、紙おむつ等申請意見書などである。

表3-10 検査等の実施件数（単位：件）

検査の種類	件数
脳波検査	0
脳幹反応聴力検査（ABR）	0
エックス線写真撮影	32

## 2 理学療法

移管後の引継ぎ時、昨年度に比べ、訓練頻度や時間に大きな差がなく、実施できていた。

昨年度より継続した地域連携として、当センター近隣の急性期医療機関に毎週半日1名訪問している。

実施内容としては、入院患者の姿勢管理の検討や介入方法の伝達などを行って、交流した。必要に応じて医師の外来診察にも控え、療育への案内も行っている。

表3-11 診断区分別状況（理学療法）

（単位：人）

診断区分	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
脳性麻痺	1	0	0	2	0	3	0	4	1	2	0	13	13.8
疾病による運動障害	2	1	3	8	2	2	2	2	2	2	0	26	27.7
後天性要因による運動障害	0	0	0	2	0	1	1	2	0	0	1	7	7.5
中枢性協調運動障害	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
運動発達遅滞	3	10	5	2	0	0	0	0	0	0	0	20	21.3
ダウン症候群	2	1	4	3	2	0	0	0	0	0	0	12	12.8
疾病に伴う運動発達遅滞	2	2	3	2	1	0	0	0	0	0	0	10	10.6
神経・筋疾患	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	2.1
骨・関節疾患	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.1
その他	0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	3	3.2
計	10	15	15	19	7	8	4	8	3	4	1	94	100.0

（注）就学前児童の年齢は、新規に訓練を開始した児童は訓練開始時の満年齢、前年度からの継続児童は年度当初の満年齢で区分した。

表3-12 訓練の月別実施状況（理学療法）

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人員	58	60	60	64	65	69	65	63	68	68	73	69	782
延べ人員	106	108	130	126	116	122	122	107	114	123	135	127	1,436

表3-13 訓練終了の区分別人数（理学療法）

区分	人数
経過良好	12
転出	3
他機関へ移行	3
その他	0
計	18

### 3 作業療法

OTは常勤2名に増員した。そのため、外来リハに加えて通園部・療育グループの支援も充実させることができた。

通園部・療育グループでは、要請のあったクラスの学習会にて講話を行った（計8回）。今年度も、北保健センターで実施された「ダウン症親の会」にて、講話を行った。

表3-14 診断区分別状況（作業療法）

（単位：人）

診断区分	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
ダウン症	0	0	2	0	2	1	0	0	0	0	0	5	2.3
その他症候群	0	0	0	1	1	1	0	0	0	1	0	4	1.9
てんかん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
知的障害	0	0	2	1	2	12	1	5	0	1	0	24	11.2
自閉症及び自閉症周辺	0	0	0	3	10	68	10	43	0	0	0	134	62.3
多動症候群	0	0	0	0	2	9	4	7	0	0	0	22	10.2
言語発達遅滞	0	0	0	0	1	0	3	3	0	0	0	7	3.3
脳性麻痺	0	0	0	0	2	1	0	1	0	2	0	6	2.8
運動発達遅滞	0	0	0	2	0	1	0	1	0	0	0	4	1.9
筋ジストロフィー	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
急性脳症後遺症	0	0	1	1	1	2	0	0	0	0	0	5	2.3
整形外科疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
その他	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	4	1.9
計	0	0	5	8	21	96	19	62	0	4	0	215	100.0

※その他は、発達性協調運動障害や脳腫瘍術後など

（注）就学前児童の年齢は、新規に訓練を開始した児童は訓練開始時の満年齢、前年度からの継続児童は年度当初の満年齢で区分した。

表3-15 訓練の月別実施状況（作業療法）

（単位：件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人員	51	67	74	97	105	93	108	105	111	103	96	116	1,126
延べ人員	57	91	106	130	127	122	136	121	132	119	115	141	1,397

※日本版ミラー幼児発達スクリーニング検査（JMAP）を18件実施した。

表3-16 訓練終了の区分別人数（作業療法）

区分	人数
経過良好	95
転出	8
他機関へ移行	1
その他	6
計	110



## 4 言語聴覚療法

摂食・嚥下機能に対する支援が必要な子どもに対しては、食事場面を通してコミュニケーションとともに、摂食機能への支援も行った。

今年度OTが増員されたことにより、年度前半は小児科からの処方OTに偏った面があり、実施数は減少傾向だった。一方後半は、構音の他、就学に向けての学習支援のニーズが高まり、実施数が増加した。また、OTからの紹介でST開始となるケースも増えた。

通園部との連携については、あらかじめ入室日を決めて各クラスに入り、主にコミュニケーションや摂食機能面について助言等を行った。STの学習会をクラス単位で(3クラス)行った。

療育グループについては、午前・午後それぞれ1グループずつ(計2グループ)、固定スタッフとして参加した。それ以外のグループでも、ことばや摂食面で保護者より相談を受けるなど専任スタッフより依頼があれば、おやつや給食場面に介入することがあった。ことばや摂食についての「話し合い」には、3回(うち1回は2グループ合同で実施)行った。

表3-17 聴力・言語等の区別検査実施状況(新規)

(単位:人)

年齢 区	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
東区	0	0	0	1	2	5	3	0	0	0	0	11	12.8
北区	0	1	0	2	7	25	1	1	0	0	0	37	43.0
西区	0	2	1	6	11	11	5	0	0	0	0	36	41.9
その他の区	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2	2.3
計	0	3	1	9	20	43	9	1	0	0	0	86	100.0

(注) 就学前児童の年齢は、検査を実施した時の満年齢による。

表3-18 聴力検査の実施状況

(単位:件)

検査の種類	年齢	就学前児童							小学生		中学生	その他	計	%
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年	高学年				
自覚的検査	乳幼児聴力検査	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	4.4
	C O R	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	3	6.5
	ピープショウ	0	0	0	2	3	14	6	8	1	0	0	34	73.9
	標準聴力検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
他覚的検査	OAE	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	3	6.5
	インピーダンス	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	0	4	8.7
計		0	0	1	5	5	16	7	11	1	0	0	46	100.0

(注) 就学前児童の年齢は、検査を実施した時の満年齢による。

表3-19 言語検査の実施状況

(単位：件)

検査の種類	年齢	就学前児童						小学生		中学生	その他	計	%
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年				
吃音		0	0	0	0	1	3	0	0	0	0	4	5.4
構音		0	0	0	0	9	23	4	1	0	0	37	50.0
その他		0	3	0	7	9	12	2	0	0	0	33	44.6
計		0	3	0	7	19	38	6	1	0	0	74	100.0

(注) 1. 就学前児童の年齢は、検査を実施した時の満年齢による。

2. 「その他」は、S-S、PVT、ITPA等の言語検査である。

表3-20 診断区分別状況（言語聴覚療法）

(単位：人)

診断区分	就学前児童						小学生		中学生	その他	計	%	
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	低学年					高学年
ダウン症候群	0	3	0	1	1	0	0	0	0	0	0	5	6.6
知的障害	0	1	1	3	3	6	1	1	0	0	0	16	21.1
自閉症及び自閉症周辺	0	0	0	0	4	14	9	3	0	0	0	30	39.5
言語発達遅滞	0	0	0	0	2	5	0	0	0	0	0	7	9.2
構音障害	0	0	0	0	0	8	0	2	0	0	0	10	13.2
吃音	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	1.3
脳性麻痺	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	3	4.0
運動発達遅滞	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1.3
その他の整形外科疾患	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
その他	0	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3	4.0
計	0	4	1	5	12	36	10	7	1	0	0	76	100.0

(注) 就学前児童の年齢は、新規に訓練を開始した児童は訓練開始時の満年齢、前年度からの継続児童は年度当初の満年齢で区分した。

表3-21 訓練の月別実施状況（言語聴覚療法）

(単位：件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実人員	23	29	31	31	24	33	37	36	42	45	45	51	427
延べ人員	28	35	41	45	32	35	44	42	46	47	49	54	498

表3-22 訓練終了の区分別人数（言語聴覚療法）

区分	人数
経過良好	21
転出	2
他機関へ移行	0
その他	2
計	25

## 第4 通園事業

### 1 事業概要

#### (1) 定員 40名

※令和5年度は、4月1日時点で43人在籍。年度途中で3人の退園、1人の入園があり、3月末時点で41人の在籍であった。

#### (2) 対象児童

0歳からの就学前の児童で、知的障害児、知的障害との重複障害児及び重症心身障害児を主たる対象とする。

#### (3) クラス編成

生活年齢、児童の動き、医療的配慮の要否を基本に編成する。

#### (4) 通園形態

親子通園及び単独通園の2形態とする。

##### ア 親子通園

- ・年間を通じて、毎週水曜日は全員親子通園とする。
- ・新規親子通園  
3歳以上の児童については入園後おおむね2ヶ月、2歳以下の児童についてはおおむね6ヶ月、通園日数は週に3日とし、親子で通園する。医療面で配慮が必要な児童については、長期親子通園のプログラムを組む。

##### イ 単独通園

- ・新規親子通園終了後、基本的に単独通園とする。
- ・通園日数は、3歳以上は全日（5日）、2歳児以下週3日とする。
- ・医療面で配慮が必要な児童については、体力や身体状況などを考慮する。

#### (5) 通園バスの運行

- ・児童の通園のための中型バス1台を運行し、所管区域である東・北・西の3区内をおおむね1時間30分以内で周れるように送迎コースを組んでいる。
- ・水曜日は全員親子通園日のため、上記の通園バスに加えてバスをもう1台借り上げて運行している。
- ・午前療育グループ利用者を送るため、センターから地下鉄「庄内通」駅までの運行をしている。
- ・診察・訓練などの利用者についても、希望があれば上記の運行に乗車可としている。

### 2 療育目標

#### (1) 上部な身体づくり

毎日の生活リズムを整え、いろいろな遊びや運動を通して、丈夫な身体づくりをする。

#### (2) 基本的な生活習慣づくり

毎日の規則正しい生活の中から、食事、排泄、着脱衣などの身の回りのことを自分でできるようにする。

#### (3) 集団生活への参加

遊びや課題を通して、友達や職員を意識し、豊かな心を養う。

#### (4) 親子関係づくり

親子通園や行事などのいろいろな経験を通して、しっかりとした親子関係をつくる。

### 3 日課

時間	月	火	水	木	金
8:35	通園バス出発				
			親子通園日		
10:10	バス到着 登園 健康健診 クラス別活動 ・排泄・着替え ・朝の会（手遊び歌等） 課題遊び				
12:00	給食  歯磨き		給食 ・着替え ・帰りの会		
13:00	自由遊び・午睡		13:30降園 バス出発		
14:00	・着替え・排泄・おやつ ・帰りの会				
15:00	降園 バス出発				

（注）各クラスの療育中に、適宜、診療相談スタッフも入る。

## 4 児童状況

以下、いずれの表も年齢は学齢区分による。

表4-1 クラス別状況

(令和5年4月1日時点)(単位：人)

クラス名	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
たんぼぼ組	0	0	0	4	1	4	9
ちゅうりっぷ組	0	0	0	0	6	2	8
ひまわり組	0	0	0	4	3	1	8
すずらん組	0	0	0	3	4	2	9
さくら組	0	0	0	8	1	0	9
計	0	0	0	19	15	9	43

表4-2 障害種別状況

(令和5年4月1日時点)(単位：人)

障害種別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
知的障害	0	0	0	2	0	1	3
自閉症	0	0	0	2	0	0	2
自閉症+知的障害	0	0	0	12	8	5	25
肢体不自由	0	0	0	0	0	0	0
知的障害+肢体不自由	0	0	0	1	3	2	6
重症心身障害	0	0	0	2	4	1	7
言語発達障害	0	0	0	0	0	0	0
保健	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	19	15	9	43

表4-3 障害程度(愛護手帳)の状況

(令和5年4月1日時点)(単位：人)

障害程度	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
最重度(1度)	0	0	0	2	2	1	5
重度(2度)	0	0	0	5	6	2	13
中度(3度)	0	0	0	11	6	5	22
軽度(4度)	0	0	0	1	0	1	2
愛護手帳未所持	0	0	0	0	1	0	1
非該当	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	19	15	9	43

表4-4 区別の状況

(令和5年4月1日時点)(単位：人)

区	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
東区	0	0	0	5	4	1	10
北区	0	0	0	6	5	7	18
西区	0	0	0	8	6	1	15
その他の区	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	19	15	9	43

表4-5 通園日数の状況

(令和5年10月1日時点)(単位：人)

通園日数	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
週に2日	0	0	0	1	0	1	2
週に3日	0	0	0	1	0	0	1
週に4日	0	0	0	1	5	1	7
週に5日	0	0	0	16	8	7	31
計	0	0	0	19	13	9	41

表4-6 卒・退園の状況

(単位：人)

区 分			児童数
卒園	特別支援学校	知的障害	2
		肢体不自由	2
	小学校（特別支援学級）		5
退園	保育所		6
	認定こども園		0
	幼稚園		0
	転居等		3
計			18

表4-7 卒・退園の在園期間

(単位：人)

在園期間	児童数	平均在園期間
1年未満	0	1年8か月
1年以上2年未満	6	
2年以上3年未満	9	
3年以上4年未満	1	
4年以上5年未満	2	
計	18	

## 5 見守り一時支援

15：00以降に希望者に対して実施しており、最大5名、最長で17：30まで支援を実施した。

表4-8 見守り一時支援

(単位：人)

月	開所日数	利用者人数	延べ利用者数	日平均利用者数
4月	12日	5	24	2.0
5月	15日	7	42	2.8
6月	17日	8	44	2.6
7月	15日	9	40	2.7
8月	11日	6	24	2.2
9月	16日	11	50	3.1
10月	18日	9	44	2.4
11月	15日	9	38	2.5
12月	14日	6	14	1.0
1月	14日	8	37	2.6
2月	15日	5	13	0.9
3月	11日	4	7	0.6
年間計	173日	87	377	2.2

## 6 行事

表4-9 行事実施状況

実施日（期間）	内容
4月7日（金）	入園式
5月17日（水）	春の遠足
6月18日（日）	家族参観
7月5日（水）	七夕会
7月6日（木）	歯科検診・歯磨き指導
8月5日（土）	夏まつり
8月5日（土）～8月16日（水）	夏休み
10月14日（土）	運動会
11月1日（水）	保護者会企画（ミニSL）
11月8日（水）	秋の遠足
12月2日（土）	家族参観
12月20日（水）	クリスマス会
12月28日（木）～1月4日（木）	冬休み
1月10日（水）	餅つき
1月31日（水）	節分会
3月13日（水）	お別れ遠足
3月22日（金）	卒園式

## 7 アフターケアグループ

前年度に通園事業を退園し、保育所・認定こども園・幼稚園等に入所（園）した児童の保護者を対象として、グループを作って、保育所や幼稚園等、又は家庭での生活についてや就学に向けての悩み、不安及び疑問などに対して、保育士、ケースワーカー等が助言・援助を行っている。

10月からは保護者を主体とした自主グループ活動に移行し、職員は側面から支援を行っている。

表4-10 アフターケアグループ実施状況

グループ名	開催状況	参加人数	担当職員
そう	月1回（第1月曜日）13：00～14：00	5人	保育士・児童指導員・ケースワーカー
りす	月1回（第3月曜日）13：00～14：00	3人	保育士・児童指導員・ケースワーカー

## 第5 地域ケア事業

地域ケア事業として、地域の関係機関等との連絡調整、巡回療育、訪問療育、センター主催の行事や講演会などの地域啓発・交流事業や、地域内関係機関との交流や行事等参加、アフターケア、就学移行支援事業を実施している。

### 1 関係機関との連絡調整

地域内の各種関係機関と連絡調整を図りながら地域療育を推進している。関係機関の事業等への職員の派遣や会議等への出席状況は以下のとおりである。

表5-1 関係機関への派遣状況

派遣先	事業内容	派遣職種	派遣の頻度
東保健センター	乳幼児発達相談	心理職	月に1回（半日）
北保健センター		保健師	
西保健センター		ケースワーカー	
天神山いこいの家	個別相談 保護者学習会	心理職等	
遊モアプラス		ケースワーカー等	

表5-2 障害児療育に関する連絡会議・研修等への出席状況

会議名など	開催日	出席職員
東区障害児療育関係機関講演会	令和5年9月29日（金）	診療相談部主任、心理職
東区障害児療育関係機関連絡会議	令和5年12月11日（月）	診療相談部主任
北区 障害児保育等四者懇談会	令和5年9月13日（水）	所長、副所長、診療相談部主任 作業療法士、保健師、保育士 ケースワーカー
西区 障害児保育等四者懇談会	令和5年8月2日（水）	所長、副所長、診療相談部主任 作業療法士、保健師、保育士 理学療法士、ケースワーカー
	令和6年2月7日（水）	所長、副所長、診療相談部主任 作業療法士、保健師、保育士 理学療法士、心理職 ケースワーカー



## 2 巡回療育

下記に該当する児童を主たる対象として、障害児に関する各種の相談に応じるとともに、保育所・認定こども園・幼稚園における保育や家庭療育、学校での支援に関する必要な助言・援助を行うため、職員がこれらの機関へ巡回している。

- (1) 相談・診療及び訓練等の状況から判断して、保育所・認定こども園・幼稚園又は学校において助言・援助を必要とする児童
- (2) 相談・診療及び訓練等を継続中の児童であって、保育所・認定こども園・幼稚園又は学校から依頼や相談のあった児童

表5-3 巡回療育実施施設数

(単位：か所)

施設区分 \ 区	東区	北区	西区	その他	市外	計
保育所	3	6	6	3	1	19
認定こども園	0	5	2	3	0	10
幼稚園	7	3	2	0	0	12
小学校	0	2	2	0	0	4
特別支援学校	0	0	2	0	0	2
その他	0	0	0	0	0	0
計	10	16	14	6	1	47

表5-4 職種別の巡回療育実施状況 (単位：件)

実施職員（職種）	実施件数
所長（医師）	0
保健師	2
ケースワーカー	23
心理職	24
保育士	19
児童指導員	0
理学療法士	7
作業療法士	11
言語聴覚士	3
計	89

表5-5 児童状況

(単位：人)

障害種別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	その他	計
知的障害	0	1	2	0	1	0	0	4
自閉症	0	1	2	6	5	3	4	21
自閉症+知的障害	0	0	2	2	5	2	0	11
肢体不自由	0	0	0	0	0	0	0	0
肢体不自由+知的障害	0	0	0	0	0	0	0	0
言語発達障害等	0	0	0	2	4	0	0	6
適性	0	0	0	1	0	0	0	1
重症心身障害	0	0	0	0	0	0	2	2
その他	2	0	0	0	0	0	0	2
計	2	2	6	11	15	5	6	47

### 3 訪問療育

下記に該当する児童を対象として、家庭における児童の生活や家庭環境の改善、及び療育技術に関する助言や援助を行うために、職員が児童の家庭を訪問している。

- (1) 重症心身障害などの児童
- (2) 外来でのセンターへの通所が困難な児童
- (3) 療育効果の向上のため、家庭での援助が必要な児童

表5-6 職種別の訪問療育実施状況

(単位：件)

実施職員（職種）	実施件数
所長（医師）	0
保健師	0
ケースワーカー	0
心理職	0
保育士	0
児童指導員	0
理学療法士	0
作業療法士	0
言語聴覚士	0
計	0

表5-5 児童状況

(単位：人)

障害種別	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	その他	計
知的障害	0	0	0	0	0	0	0	0
自閉症	0	0	0	0	0	0	0	0
自閉症＋知的障害	0	0	0	0	0	0	0	0
肢体不自由	0	0	0	0	0	0	0	0
肢体不自由＋知的障害	0	0	0	0	0	0	0	0
言語発達障害等	0	0	0	0	0	0	0	0
適性	0	0	0	0	0	0	0	0
重症心身障害	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	0	0	0	0	0	0

#### 4 地域啓発・地域交流

障害児への理解を深め、障害児が家庭や地域でよりよく生活していける環境を整えることを目的として、地域啓発や地域交流に努めている。

表5-8 地域啓発・地域交流事業の実施状況

事業名・開催（予定）日時など	事業内容の概要
1 夏まつり 令和5年8月5日（土）	北部地域療育センターよつばを利用する児童、前年度の卒・退園児児童、保護者、関係機関や近隣地域の方々、ボランティア、職員が親睦を深め、センターの事業を地域により根差したものにしていけることを目的として開催している。園庭を開放し、模擬店やアトラクション、親子遊戯、踊りなどを行っている。
2 「子育て広場 in にし」 令和5年11月25日（土） 西区役所山田支所 講堂	毎年、名古屋市民間保育園連盟・西区保育園連合会・子育て広場inにし実行委員会の三社が共催し、西区内の保育園や関係団体が参加して子育て広場を開催している。 例年依頼を受けてセンターの保健師が参加し、来場した地域住民らに地域療育センターの事業を紹介するとともに、育児相談などを受けている。
3 西区「フレンドふくしフェスティバル」 令和5年12月2日（土） イオンタウン名西	地域の理解を深めるため、毎年、西区障害者地域自立支援協議会と西区役所が共催している「フレンドふくしフェスティバル」にセンターの相談支援専門員が参加している。
4 ボランティアの受け入れ	地域療育センター事業への理解と関心を深めてもらうとともに、地域における障害児・者へのボランティア活動を振興するため、通年で次のようなボランティアの受け入れを行っている。 ①大学や短大の学生、近隣住民の方々のボランティアを募集し、通園事業や療育グループ事業の運営に職員と一緒に参画してもらっている。 ②学校の夏季休業期間中、西区の中学生サマーボランティア及び中部善意銀行の高校生ボランティアを受け入れている。
5 療育講演会 令和5年12月6日（水）	療育センターが持つ資源の地域還元と療育関係者の資質の向上を図るため、地域で障害児療育に関わる保育所・認定こども園・幼稚園・学校・保健センター・児童デイサービス事業所等の職員を対象に、障害児療育に関する講演会を開催した。 <テーマ>いまそしてこれから ～今後の地域療育センターの果たす役割～ <講師>北部地域療育センターよつば 今枝所長・センター職員 <会場>西文化小劇場 <参加者>保育所・幼稚園・認定こども園 児童発達支援事業所・学校 保健センター等の職員73名

表5-8 地域啓発・地域交流事業の実施状況（続き）

事業名・開催（予定）日時など	事業内容の概要
<p>6</p> <p>①通園体験 ②療育グループ体験</p>	<p>①東・北・西区3区内の保育所・認定こども園・幼稚園・児童発達支援事業所の先生を対象に、センターでの通園体験事業を実施している。 （今年度は実施なし）</p> <p>②東・北・西3区内の保育所・認定こども園・幼稚園の先生を対象に、センターの療育グループ体験事業を実施している。 （名参加）就園前グループ 6回実施、11名参加 並行グループ 5回実施、9名参加</p>
<p>7</p> <p>療育グループ 担任参観</p>	<p>療育グループ（並行）に参加している児童が通っている保育所・認定こども園・幼稚園を対象に担任参観を実施している。</p>
<p>8</p> <p>交流保育</p>	<p>地域の保育所・認定こども園・幼稚園と相互理解を深めるため、センター通園部に通う子ども達との交流保育を行っている。</p>
<p>9</p> <p>サポートブック作成研修 令和5年9月20日（水）</p>	<p>障害をもつ子どもの支援ツールである「サポートブック」を広めていくことで、学習を通して子育てを支援することを目的とした左記の研修会を行っている。</p>
<p>10</p> <p>エリア支援保育所 保育研修交流会</p>	<p>エリア支援保育所主催の研修会に、講師派遣等を行った。</p> <p>○東ユニットエリア支援保育所 保育研修交流会（東区） 「気になる子・保護者へのアプローチや配慮していることについて」 &lt;参加者&gt;保育士 &lt;日 時&gt;令和5年11月30日（木） 15：45～17：15 &lt;場 所&gt;東保育園</p> <p>○エリア支援保育所 保育研修交流会（西区） 「気になる子どもの保護者へのアプローチ」 &lt;参加者&gt;保育士 &lt;日 時&gt;令和5年11月10日（金） 15：30～17：00 &lt;場 所&gt;北部地域療育センターよつば 会議室</p> <p>○保育研修交流会（北区） 「子どもの育ちを支える～療育センターの診療から～」 &lt;参加者&gt;所長、副所長、診療相談部主任、ケースワーカー、保育士、心理職 &lt;日 時&gt;令和6年1月30日（火） 15：00～17：00 &lt;場 所&gt;北区役所 講堂</p>

## 5 通園部の卒・退園児のアフターケア

センターの通園部を卒園又は退園した児童を対象に、保育園・幼稚園や学校に出向き相談等を実施している。

表5-9 卒・退園児のアフターケア実施施設数 (単位：か所)

施設区分	東区	北区	西区	その他の区	市外	計
保育園	3	3	3	0	0	9
幼稚園	1	0	1	0	0	2
認定こども園	0	0	0	0	0	0
小学校（特別支援学級）	1	0	2	0	0	3
特別支援学校	知的障害	1	3	1	1	6
	肢体不自由	0	0	2	1	3
	聴覚障害	0	0	0	0	0
計	6	6	9	2	0	23

表5-10 卒・退園児のアフターケア実施状況 (単位：件)

実施職員（職種）	実施件数
診療相談部主任	0
通園部主任	0
理学療法士	2
作業療法士	0
言語聴覚士	0
ケースワーカー	1
心理職	4
児童指導員	11
保育士	16
保健師	0
相談支援専門員	0
その他（名古屋市職員）	23
計	57

## 6 北部地域療育センターよつばのホームページの開設

社会福祉法人よつ葉の会のウェブサイトでホームページを開設しており、随時、情報提供を行っている。

また、SNS（X）を活用した情報発信も実施している。

## 7 北部地域療育センターよつばだよりの発行

第1号（令和6年4月発行）

「いま そして これから ～今後の地域療育センターの果たす役割～（療育講演会を基に）」

「初診前サポートのご案内」

「医療的ケアのある子どもの伸びる力を大切に（地域療育センター合同研修会報告）」

「通園部 交流保育報告」「療育グループ体験報告」

## 8 就学移行支援事業

小学校入学に向けて、教育センター等と連携して、保護者への情報提供を行っている。

### (1) 特別支援学級・特別支援学校就学説明会

当センターを利用して就学を控えた児童の保護者のうち、児童の就学先として特別支援学校又は特別支援学級を予定し、もしくは検討している方々を対象に、例年、教育センターから講師を招いて、特別支援学校（級）への就学手続きの流れや特別支援教育の現状等について説明会を開催している。

〈開催日時〉令和5年5月23日（火）10時30分～11時45分

〈会場〉名古屋市西文化小劇場 ホール

〈講師〉名古屋市教育センター 和田 茉莉子 氏

〈内容〉就学に向けての学校への相談や手続きの流れ  
名古屋市内の特別支援学校や特別支援学級の現状  
就学までに子どもに身につけさせたいこと等

### (2) 特別支援学校見学会

当センターを利用して就学を控えた児童の保護者のうち、児童の就学先として特別支援学校を予定もしくは検討している方々を対象に、例年、学校見学会を実施している。

表5-11 特別支援学校見学会実施状況

見学先	見学会開催（予定）日時	参加者数
名古屋市立西特別支援学校	令和5年6月15日（木）	7名
名古屋市立守山特別支援学校	令和5年7月18日（火）	21名
愛知県立名古屋特別支援学校	令和5年6月1日（木）	9名

### (3) 就学前保護者懇談会

当センターを利用して就学を控えた児童の保護者を対象に、先輩保護者を交えての懇談会や、講演会を実施している。

表5-12 就学前保護者懇談会実施状況

開催日時	内容	参加者数
1 令和5年6月14日（水）	先輩保護者との懇談	9名
2 令和5年11月7日（火）	講演会「就学に向けて」 講師：北部地域療育センターよつば 所長 今枝 正行	13名

## 第6 相談支援事業

発達や成長面で不安があり、児童発達支援や放課後ディサービスなどの福祉サービスの利用を希望する主に未就学又は小学校低学年の児童を対象として、相談支援専門員が基本相談支援、サービス等利用計画及び障害児支援利用計画の作成、モニタリング、計画の継続及び変更などを行っているが、小学生高学年以上が74名おり、地域の相談支援事業所への移行が課題となっている。

職員体制としては、管理者1名（兼務）、相談支援専門員2名（常勤1名、兼務1名）で行った。

表6-1 区別・年齢別契約人数（令和5年度末）（単位：人）

区	就学前児童						小学生		中学生	高校生	その他	計
	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	低学年	高学年				
東区	1	1	4	8	6	5	7	7	8	1	0	48
北区	1	1	7	13	6	16	32	20	12	3	0	111
西区	0	4	9	12	16	9	23	12	9	2	0	96
その他の区	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2
計	2	6	20	33	29	30	63	39	29	6	0	257

(注) 1. 年齢は、年度初日の満年齢により区分した。  
2. 小学校は3年生以下を「低学年」に、4年生以上を「高学年」に区分している。

表6-2 月別、新規契約件数及び終了等件数（単位：件）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
新規契約	7	4	6	8	7	7	7	2	6	3	0	2	59
契約の終了 又は解除	0	1	0	1	1	0	2	3	0	1	3	2	14
契約件数 増減の累計	7	10	16	23	29	36	41	40	46	48	45	45	45

表6-3 障害児支援利用契約案の月別作成件数（延べ件数）（単位：件）

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計 画 案	20	28	24	20	38	20	21	13	18	14	40	64	320
本 計 画	61	43	27	6	51	14	20	16	14	12	13	0	277
モニタリング	3	1	0	5	3	6	7	13	7	3	1	0	49



## 北部地域療育センターよつば 利用者の10年間の推移（平成26年度～令和5年度）

※平成26年度～令和4年度は名古屋市北部地域療育センター実績

### 区別の新規発達相談件数

（単位：人）

年度 区	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
東 区	39	40	43	54	58	60	55	78	94	81
北 区	174	134	158	162	151	162	146	193	191	178
西 区	123	143	115	118	134	116	157	194	198	189
その他の区	1	1	22	14	1	0	1	1	0	0
市 外	2	3	1	1	1	0	0	1	1	4
計	339	321	339	349	345	338	359	467	484	452

### 児童の年齢別新規発達相談件数

（単位：人）

年度 年齢	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
0歳	15	12	8	13	20	10	6	9	6	10
1歳	30	30	29	20	33	31	30	28	37	35
2歳	103	109	106	108	86	88	105	124	149	112
3歳	99	85	81	86	101	92	105	155	127	142
4歳	42	39	53	44	49	51	50	67	73	63
5歳	28	29	36	49	37	47	47	58	57	65
6歳	16	8	15	25	18	16	16	26	34	24
小学校低学年	6	8	10	3	0	3	0	0	1	1
小学校高学年	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0
中学生	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	339	321	339	349	345	338	359	467	484	452

### 発達検査の年度別延べ実施件数

（単位：件）

年度	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
検査実施件数	747	718	735	693	641	662	638	720	775	781

### 療育グループ参加児童数（年度末時点）

（単位：人）

年度 区分	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
就園前グループ	87	80	80	59	58	48	52	72	77	62
並行グループ	44	41	33	35	25	21	30	21	33	42
計	131	121	113	94	83	69	82	93	110	104

### 小児科診察の年度別実施件数

（単位：初診は人、再診は件）

年度 区分	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
初 診	339	321	339	349	345	338	359	467	484	452
再 診	1,923	2,010	2,091	2,217	2,159	2,159	2,057	2,374	2,514	2,730

**整形外科診察の年度別実施件数**

(単位：初診は人、再診は件)

年度 区分	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
初 診	44	49	30	30	53	34	29	33	31	34
再 診	256	316	321	321	322	340	396	393	355	477

**精神科診察の年度別実施件数**

(単位：初診は人、再診は件)

年度 区分	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
初 診	7	4	6	5	7	3	7	10	8	2
再 診	160	128	107	80	86	63	76	70	55	91

**耳鼻咽喉科診察の年度別実施件数**

(単位：初診は人、再診は件)

年度 区分	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
初 診	23	19	31	20	27	27	20	24	25	25
再 診	77	71	114	86	65	66	45	65	51	66

**理学療法・作業療法・言語聴覚療法の年度別延べ実施件数**

(単位：件)

年度 区分	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
理学療法	522	870	1,181	1,229	1,347	1,344	1,187	1,445	1,258	1,436
作業療法	109	93	133	92	107	127	576	840	751	1,397
言語聴覚療法	245	317	698	543	499	432	379	482	398	498

**巡回療育の年度別実施件数**

(単位：件)

年度 区分	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
件数	19	46	46	36	37	29	3	7	26	47

**訪問療育の年度別実施件数**

(単位：件)

年度 区分	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
件数	0	0	0	4	15	8	0	2	0	0

**アフターケアグループ（療育グループ・通園事業）参加者数（年度末時点）**

(単位：人)

年度 区分	平成 26年度	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度
件数	54	43	45	42	44	21	44	32	24	29



- 地下鉄鶴舞線「庄内通駅」（2番出口）から徒歩約12分
- 市バス「名塚」または「大金町」から徒歩約8分

## 北部地域療育センターよつば

### 事業概要

— 令和5年度版 —  
 (2023年度版)

(令和6年8月発行)

編集・発行： 社会福祉法人よつ葉の会  
 北部地域療育センターよつば  
 名古屋市西区新福寺町2丁目6番地の5  
 電話 052-522-5277  
 FAX 052-522-5279  
 E-mail  
 n-yotsuba@mail.yotsuba-kai.org